島根大学教育学部紀要（人文・社会科学）第26巻　103頁～109頁　平成４年12月

地球的共存と発展のための文字文化の伝承，学習，創造

―（日本の）漢字仮名交じり表記における若い世代の手書き文字の傾向分析，学習指導の事例研究を通して考える

森　下　　弘*

Hiromu MORISHITA

The Transmission, Study and Creation of a Culture of Writing for Global Co-existence and Progress
— Through a Case Study of the Analysis of Tendency and Teaching of Learning of Hand Writing with the Younger Generation.

はじめに

一　人間の社会，文化は言葉を持つことによって類のない進化を遂げ，それを記録する文字の発明によって，地域，時代を超えて意志，文化を伝達，交流することができ，人類社会の進歩をもたらした。

二　しかし現代の世界の状況を見ると，手放しで楽観しておれない条件も多く存在する。すなわち，

1　地域，民族におけると同様，言語，文字にも複雑な多様性が見られ，それらが時に意志の疎通を阻害している。

2　世界中で，文字の読み書きのできない文盲の率は下がっているにもかかわらず，絶対数は増加している。

3　機械，技術の発達が言語，文字文化の発展をうながしている半面画一性，非人間性をももたらしかねない。

(1)の多様性について言えば，人為的世界共通語としてエスペラントが創出されたが，それはかならずしも一般には普及しなかった。また英語が広い共通性を持っている現状であるが，それを強制するならば，途上国の，そして多くの人々が自国語を含めて二重の学習負担を強いられることになる。

第二次世界大戦中，日本も占領地住民に日本語や文字を強要しなかっただろうか。

民族，文化同様，言語，文字の独自性，多様性はそれを尊重しなければならない。広い理解と探求，単一ではないアプローチが求められる。

(2)の文盲であることは，教育，よりよい生活条件，技術の修得，享受の機会が閉ざされ，狭められることであり，差別，抑圧，低位の生活，学習の機会が与えられないということがそれを生みだすという悪循環をもたらしている。

ユネスコをはじめ，各国，またボランティアの人々によって識字教育の努力がなされていることは周知の事実であるが，同時に，各国で言語，文字政策として，その平易化，簡易化，合理化もまたしばしば行われてきた。

中国における簡化文字，日本に於ける当用漢字等がそれである。

第二次大戦後，連合国軍は日本に対する教育政策として，「いずれ漢字は廃せられ，音標システム（ローマ字）が採用されると信ずる」とサジェストしていた程である。

ところが現代のように情報が大量かつ多様になってくるとそれを受容するのに漢字のもつ象徴性，一字多意性がまた見直されたりしている。漢字数を増やした常用漢字が現在採用されている。

中国の簡化文字はあまりに簡略化しすぎて，簡略化の元とした草書と時に判別がつかないこともあって困るということも指摘されている。

(3)についてさらに言えば文字を覚えたり，手で書くことの困難さをカバーし，速く，きれいに，あるいは解りやすく，また大量に伝達することを可能にしたものが印刷であり，ワープロ等の機器の進歩である。アルファベッ

＊ 島根大学教育学部国語研究室

トは言うにおよばず中国語，アラビヤ文字，ハングル等，各国文字のワープロの開発は言うまでもなく，漢字そのもの，文字そのものを覚えなくなる，といった心配をよそに，このごろの機器は非常に複雑な漢字や符号も打出してくれる。

印刷活字，写植の文字も新らしいデザイン，個性がコミュニケイションの場や要請に応じてつぎつぎに創造されている。

しかし，そもそも文字はそれを書く道具に応じてそのスタイル，個性を形作ってきたともいえる。それが伝統となって，現在の文字の姿，規範，あるいは美しさとなって定着している。

その主要な要素は手書き，とりわけ中国や日本の漢字や仮名文字では毛筆による筆運び，止めたりはねたりの筆用い，線を続けるその順序等であり，それが軌跡となって結晶して最も書きやすい，多くの人の感覚に受入れやすいものとなって定着しているのではないか。

手書きということ，多様な個性や表情を表現できる毛筆という用具を得たことで文字は人間性や美の表出としての芸術として今日なを精彩を放っている。

それだけではない，日常の文字を手で，それも上記の伝統の手法に基いて，典型を書くということは，修練を要することであり，コンピューターの発達した今日ですら，日本の子供たちのある者は算盤や暗算による計算の訓練を受けているが，文字を書くと言うことは手先と頭脳のきわめて知的で高度な連係作用，活動を発達させるのに役立つ。

三　そもそも文字に望まれることは正しく伝達し，解りやすいということであり，表記しやすいということであり，それに加えて，美しいという感性に訴えるものがあればそれに越したことはない。

だが上記三つの視点から現在の言語とりわけ文字表記，表現の現状が内包している肯定的，否定的両面を述べてきたが，単一に，これが解りやすい，書きやすい，美しい文字，手法だ，と断定する事の出来ない多様な要素が存在する。

そうした状況の中で，われわれみんなの生活，生存と関わった現代そして将来の文字，文字生活，文字文化，文字教育の問題を解明するにはどうしたらいいか。

以下，小学生，中学生，高校生，大学生の手書きの文字実態と，その「自己学習力を生かす」ことを志向した学習指導の実際と効果等を分析，研究することを通して，その糸口を探って行くこととしたい。

PREFACE

I. With the development of language, human society amd culture expearienced unparalleled evolution, and with the invention of writing to record language, human society made further progress as people were now able to communicate and exchange their intentions and culture in other regions and eras.

II. Howevre, looking at the present state of the world, there are many condition which are far from reassuring. That is,

1. With divisions into regions and ethnic groups, there is diversiy in language and writing systems which sometimes hinders the communication of inten tions.

2. Although the proportion of non-literate people in the world's population is decreasing, in absolute numbers the population of non literate people is increasing.

3. Although the development of mathines and technology encourages the development of literacy, they also bring uniformaty and inhumanity.

1) with regard to diversity, Esperant was created as an artificial worldwide common langage, but it did not spread among the common people. English is widely used thoughout the world, but if it is forsed on people in developing countries as well as other people are burdened with mastering their own lsanguage plus another.

During the Second World War Japan forsed the Japanese language and writuing system in the people of the occupied countries.

Just as with ethnicity and culture, the originality and diversity of languages and writing systers must be respected. A multifaceted approache to broad understanding and reserch is needed.

2) Non-literate people find that their opportunities fot educationn, better living cconditions, and ; mastering of arts and technology are either closed or narrowly limited. this becomes a vicious circle of discrimination, Oppression, poverty, and loss of opportunities for getting an education.

It is welll known that UNESCO, many countries, and volunteers have been working hard at literacy education. at the same countries have been working to simplify and rationalize their languages and wtiting

sydtems.

Simplified caracters in China and limitation the number of characters in daily use in Japan are example of this.

After the Seconed World War, the Allied Armies suggrsted that educational policy in Japan should consider tht, "Befotr long Chinese characters will probably be abolished and a phonetic system (roman letters will probaably be adopted."

However at the pressent time with the great amount and variety of information, the value of Chinese characters as symbols in which one character can carry a variaety of meanings has been recognized. The number of Chinese charactors for daily use in Japan has been increased.

In China it is reported that some characters have become too simplified and have become confused with "Sōsho" which served as the origin of the simplified charactors.

3) With regard too the deveropment of machines and technology, printiong and machines such as word processors have helped to cover up the difficulties involved in learning to read and write a writing system and make it possibile to produce beautiful and legible writing in a large quantity quickly.

These machines can handle not only the Roman alphabet, but the Chinese writing system, Arabic letters, and the Korean writing syster. These new machines can produce the most complicated Chinese characters and other signs.

Type faces and photographic letter styles are now created to meet the requirement of each individual communication setting.

However, the style and individual characteristics of letters and charcters developed according to the tools used to write them.

These became the trditions which fixed the present shapes, standerds, and beauty of these letters and characters.

Writing was primarlily by hand and in China and japan both Chinese characters and *Kana* were written with bruushes. As the brush is used to begin and end a line or stroke, as the order of strokes is developed, these characteristics are crystalized, making the characters easier to write and more acceptable to the feeling of those who read them.

Writing by hand, using the brush which make possible the expression of a variety of individual characteristics and apperances, produces a vivid art which shows both humanity beauty.

But this is not all. Handwriting today is based on traditional ways of writing and also require training and practice. Even in these days of the computer. Japanese children still practice on the abacus and learn their multiplication tables. Writing is also importnt for linking intellectually the brain and the hand.

Ⅲ. Originally one looked to writing for accurate transmission of information, for making things understandable, and for case of recording, but we also look to writing for beauty which appeals to the emotions.

We have discussed language and writing from three perspectives above, including both positive and negative aspects, but there are a variety of element which prvent us from simply talking about case of understanding, ease of wrting, and the beauty of a writing system.

In thit situatuation, how can we solve the problem related to writing, and literacy in culture and education, issues which are related to both the present situation and the future and whitch are impportant for our continued existence?

In what follows I want to search for a begining in reserch which analizes the directed learning of elementaly school. junior and senior high school, and university students aimed at promoting self－directed learning on the part of students.

【Ⅰ】小，中，高校，大学，学生，生徒 文字書写傾向の分析

〈資料の収集〉

松江市内，普通規模校の下記学年児童生徒，各60名を対象に，新学期始め，課題文章の書写(縦書き，横書き)を依頼した。

〈対　象〉

小学１年，４年，中学１年，高校１年，大学１年（＝書写履修学生＝履修後の分析も行なう）

〈処　理〉

サンプルをひらかな，カタカナ，漢字，縦，横，文字

構成要素別に分析(Ｋｊ法)，学年，縦書き，横書き，執筆，書経験別に比較，または相関の考察を行なう。

〈課題文〉

小学１年生　いろは48文字

小学４年生　小学３年書写教科書等より

中学，高校１年生　下記文章より抜出し

大学１年生　岩波新書，瀬木耿太郎著「中東情勢を見る目」より〝ダーシーによる油田発見〟の項

分　析

各文字構成要素別字群における校種，学年別，文字書写傾向および縦書き，横書き別傾向の比較

１．ひらかな

(1)　上下に向い合う線より成る字「こ」「に」「た」(「き」)

（表１，表２参照）

一　縦書き（表１）

全体的に見ると，(右に流れるとのを含めて)，文字を構成している，上下に向き合う二本の横線がともに右下がりになっているものが多い（平均で29.8%)。

サンプルそのものを見ると，それらの中には縦線を含めて字全体が右に傾いているものも少なくない。

学校，学年別に見ると，

小学校１年（すなわち小学校入学まもなく＝文字書写学習以前，したがって，以下，便宜上，学習前と呼ぶ）では二本の横線が,文字ごとに上がり下がりして,不定,不安定なものが多い（42.3%)。

そして全体の流れとしては，学年が上がるにつれて，字形が整っているようでもあるが，

小学校４年で,意外と整っているものが多く(44.9%)，それはほかでもない，３年を主とした小学校低学年での学習，指導の結果がそこに見られると考える。

それに対して，中学校１年，とりわけ高等学校１年では右下がりが多く，整正（上下対称）が少ない。それを小学校高学年，中学校での学習，指導の乏しさからと考えるか，だんだん字を速く，多く書くために，右下へ流れていく自然なことと見なすか，行書の範疇で考察したい。

大学生では整った（上下対称）者が多い。

二　横書き（表２）

全体を見ると，縦書きに比べて，上下対称が減じ，不定が多くなってくる。

また二本の横線が右に向かって上下に開く形になるものが増えている。

右下がりが多いことに変りはない。(その中に，下線が右に流れるもの，最後が弧になったり，右上がりになるものも含まれる)

学校学年別に見ると，学習前，大学を除いて，小学４年，中学，高校１年では上下対称の割合が非常に低く低学年での不定の率が高い。横書きできちんと書くことは難しいのか，崩れるのが自然なのか，小，中学での横書きの学習，指導が乏しいのか。

以上，総じて見ると，

これらの字群は規範通りに上下対称ではありにくく，右下に流れやすいことが知れる。横書きではそれに加えて，右上下への開きも増えてくる。

整えるように指導することの一方では，縦書きでは右下下がりの，また右傾の字形が許容され，横書きでは左傾，あるいは下線の終わりが右上がりに巻き込む形が肯定されてもいいのではないかとも思える。許容の問題にかかわって，検討を続けたい。

上下に向い合う線

こ　に　た

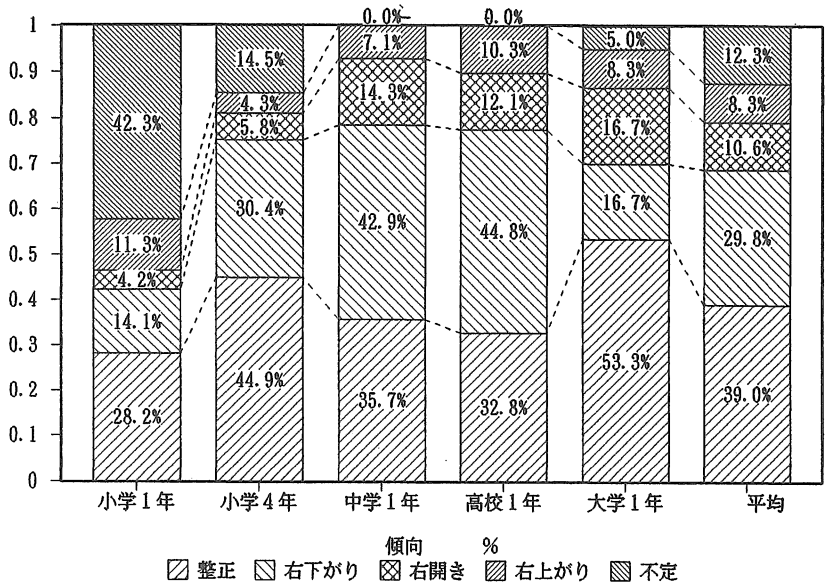

表1　平仮名　縦書き

上下に向い合う線

こ　に　た

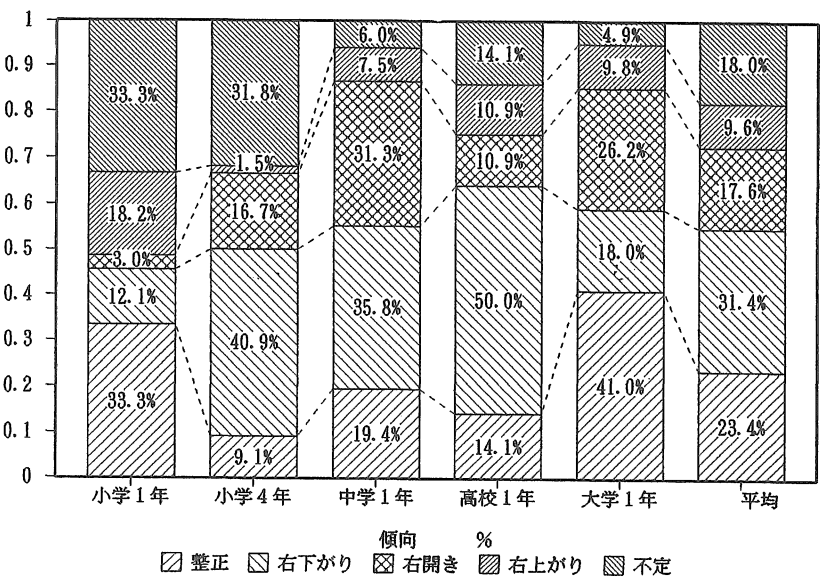

表2　平仮名　横書き

(1)　左右に向い合う線より成る字「り」「け」「い」「は」「ほ」「せ」「か」（表3，表4参照）

一　縦書き（表3）

全体的に見ると，前項の字群に比べて，整正（左右対称）なものが多く，縦画は直に書きやすいように見える。

次いでは，縦線（字形も）が左に傾くものが多い。

学校，学年別では，

学年が上がるにつれて，対称性が高くなっていく。(これは横書きでも同傾向)

低学年（小1，4年）では縦線の傾きが不安定なものが他より一段多い。

中学1年がなぜか良い。

高校1年で左に傾くのが多いのも同様。

大学で，平行線が下で狭くなるものがやや多いが，これも左傾と見なしていいだろうか。

二　横書き（表4）

全体的な傾向は縦書きとあまり変らない。

ただ，左に傾くものが多かったのが，逆に右に傾くものの方が多くなってくる。

学校，学年別では，

学習前で非常に不安定である。

中学1年が良い。

縦横全体で言えることは，

これらの字群を続け書きする場合，縦書きでは字形を右に傾け，横書きでは左に傾けた方が，最短距離で連綿でき，能率的であるにもかかわらず，その逆の傾向が見られるのはなぜだろう。

一つには，推論として，多くの生徒がシャープペンシルを用いており，親指と人差し指の先を揃えて固く持ち，中に右上方向から突っかけるように持つ者もいることから，縦書きでは右傾の字が書きにくく，横書きでは左傾の形がとりにくいのではなかろうか。

また一つには，そうした状態にもかかわりながら，指でなく，手首を左右に振るような気持ちで，大きくリズミカルな弧を描くことで左傾（縦書きの場合），右傾（横書きの場合）の文字が書けるのではなかろうか。

総じて，硬筆の持ちかたの指導とともに，(寝かせては書きにくいボールペンなどのように）筆記具の性質に則って，生まれてくる字の傾向にも目を向けてゆきたい。

※　以上の前半部分はエジプト，カイロにおける［教育課程と教授法世界協議会］本年度研究会〔8月〕での報告をまとめたものである。(以下次稿)。

左右に向い合う線

り　け　い　は　ほ　せ　か

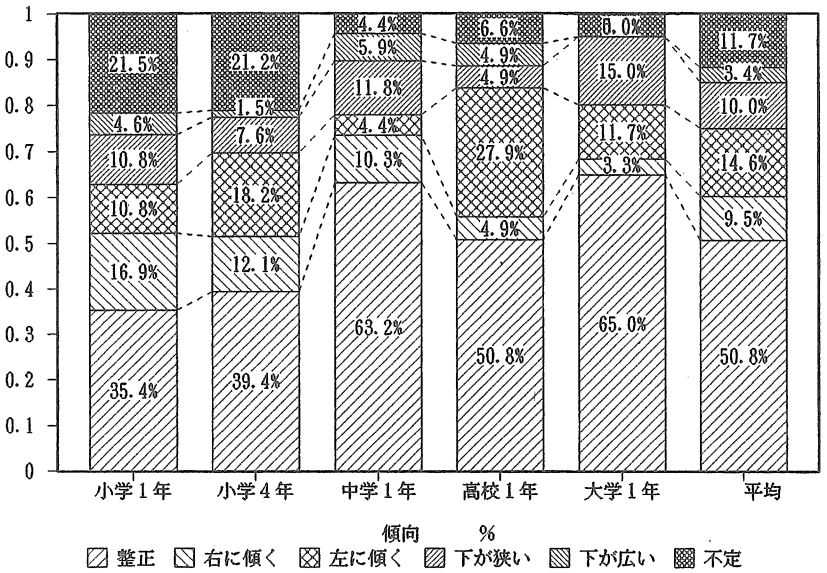

表3　平仮名　縦書き

左右に向い合う線

り　け　い　は　ほ　せ　か

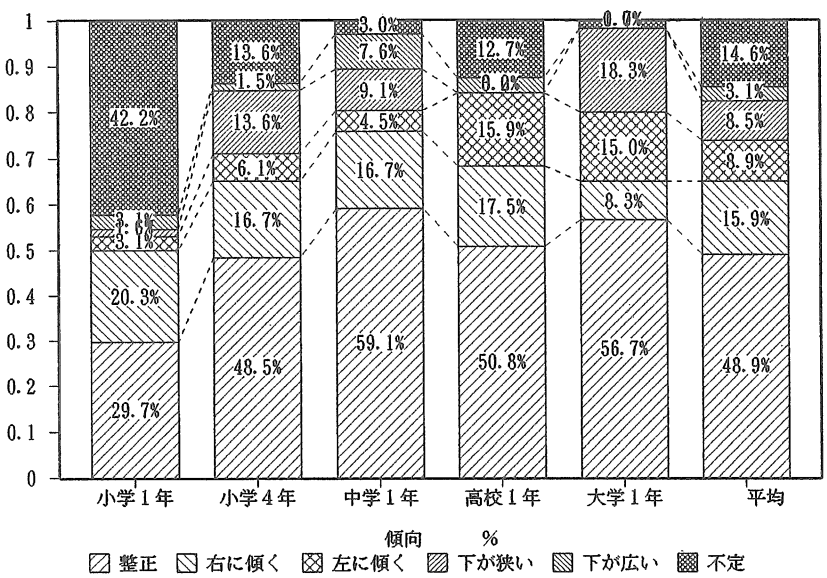

表4　平仮名　横書き